







# 決意を固めスタート

## 家庭倫理の会辞令交付式

個性が輝く会だ

【家庭倫理の会大阪府連】九月七日、菅原市健康福祉センターで令和七年度辞令交付式が開催された。二十四名、国歌斉唱、家庭倫理の会歌斉唱、引き続き、鎌倉利廣新会長より役員者一人ひとりに辞令が交付された。

会長挨拶では、今年度の会の方針と抱負として「自分、家族、人のため」に「積極的に行なう」と述べた。

【阪神南チーム】と「自分、家族、人のため」に「積極的に行なう」と述べた。

【家庭倫理の会京都北】九月七日、京都府会館で開かれ、役員者二十三名が出席した。

村田博子講師から、赤阪文新会長に辞令が渡され、新体制がスタート。続いて役員者に辞令が交付し、一杯盛り上げます。畑起

代子文化サークルは「皆が楽しんで活動できるような取り組みを」。前回の辞令交付式で、活動の積極性を声掛けし、喜んで活動します。藤本邦子班長は「自分が機軸となって喜んで行事に参加します」と述べた。

最後に倫理研究所所歌「田村の夢」を斉唱し、厳粛な空気で閉会した。



誇りと自信を胸に飛躍を誓う(阪神南)



心を一つに諸活動に取り組む決意を固めた(京都北)

結果して普及に邁進

【家庭倫理の会鹿児島中】九月八日、城山ホテル鹿児島で開かれ、七十名が出席した。

国歌斉唱、家庭倫理の会歌斉唱の後、小川美喜子会長から会の役員者に辞令が手渡された。次いで一人ひとりが決意を誓い、今後の抱負と会の

笑顔でスタート

【家庭倫理の会鹿児島中】九月八日、城山ホテル鹿児島で開かれ、七十名が出席した。

国歌斉唱、家庭倫理の会歌斉唱の後、小川美喜子会長から会の役員者に辞令が手渡された。次いで一人ひとりが決意を誓い、今後の抱負と会の

辞令を誓った。出席式では、六名の体験報告が行われ、内倉あゆみ准講師がまじめを述べた。今年度から同会の運営サポートに就いた内倉准講師は「令和七年度に向けて、仲間と協力し、よりよいスタートを切りたい」と述べた。

最後に参加者全員がおはよう歌を斉唱し、万歳で締め切った。普賢は、おはよう歌の参加が嬉しい旨も出され、笑顔いっぱいスタートを切った。

# 歴史のバトンをつなぐ 楽しく学ぶ文化活動

楽しみ方は自分次第

【家庭倫理の会始良】七月二十八日、始良公民館に中村正生文化部長を迎えて「初めての書道教室」が開催され、二十一名が参加した。

午前中の書道教室では、筆の持ち方、基本動作を習って実習に入っ



好きな文字や絵を書いた(始良)

長の話に聞き入り、短歌への思いを深くした。

手作り文化展

【家庭倫理の会宮城】八月十七日、おはよう館理塾石巻会場で一日限りの「文化展」を開催した。

平成二十六年に初回が行なわれた「夏のおわりの文化展」から続行された。昨年度から新趣向を取り組んでいる。

カラー白紙に思い思いの短歌、書道、絵画、写真を貼り、一人ひとりが短歌を詠みながら、甲斐主事が解説した。最後に「いい短歌の歌に合わせ、朗読し、笑顔が溢れ、楽しい体験となった。開催予定が地域新聞に掲載され、それを見て出席した人もいた。今後の参考にしたいとの声も上がった。



部屋いっぱい作品が並んだ(宮城)

喜びを語り、個性のある作品に仕上げた。展覧した作品数は全五十四名、県内の倫理法人会支部の作品も数寄せられた。来場者は延べ四百八名。来年度は、地域の方を誘って開催したいとの声も上がった。出品者も来場者も大いに楽しんでた文化展となった。

はじめての歩

【家庭倫理の会越谷】七月十四日、文化部の甲斐主事が挨拶して「初めての短歌教室」を開催され、未登壇者を含む二十三名が参加した。

甲斐主事の、分りやすい楽しい講話の後、実習に入り、各指導者から教えられる短歌を作った。その後、画用紙に書き添って白紙に貼り、一人ひとりが短歌を詠みながら、甲斐主事が解説した。最後に「いい短歌の歌に合わせ、朗読し、笑顔が溢れ、楽しい体験となった。開催予定が地域新聞に掲載され、それを

# 明るく感謝の日々

各地のおはよう倫理塾

【家庭倫理の会福岡】七月七日、生涯館の小林宣子専任研究員を迎え、須賀川支部のおはよう倫理塾が開催され、リモート参加五名を含む二十三名が出席した。

初めて高千穂原研修所に赴いて特別セミナーに参加した。同支部の専任研究員が実践報告、初めと出合い、夫の話を傾聴する実習を試みた。この、夫婦の関係が一段と良くなり、家庭の雰囲気も明るくなった体験を話した。

講話小林専任研究員は、「万人幸福の業」十五茶(富成芳事)のポイントを解説。子の進路問題で夫婦が心を合わせて互いの役割を尊重し、子を信じて待つことに徹した。その、困難が解決された事例を挙げ、一親は大きな深い愛情、子を信じて待つ、認めることが大切だと、子育への要諦を話した。

【家庭倫理の会大田】八月十八日、大阪府倫理塾(後援)教育企画部部長を迎えて合同おはよう倫理塾が開催され、七十二名が参加した。

高校からドバイへサツカ留学していた百城神

【家庭倫理の会加古川市】一日、加古川倫理会館で開催され、五十二名が出席した。

実践報告は、現在、夫と二人暮らしの尾上南支部の眞家新子さん。慢性心不全と診断されて落ち込んでいた時、生活倫理相談で「今日一日、この一瞬を大切に生きることです」と助言された。夫からも「一人はみんな死に向かっているのだから、必要以上に怒ることはない」と励まされて勇気づけられた体験を披露し、「二日一日大切に生きて、明るく感謝して生きていきます」と話した。

眞家新子さんは「一人ひとりの繋がりを大切に、自分を、家庭を、地域を良くする実践を通して倫理の学びを拡げていきます」と話した。



体験に勇気をもたらした参加者(加古川市)

# 気づきと実践で好転

## 悩み解決の道探る子育て発表会

アドバイスが自信に

「家庭倫理の会石川」七月二十日、石川県立図書館で子育て発表会が、スベシャル版にあたる「子育て発表会」が開催され、未会員九名を含む四十七名が参加した。

今年も子育てセミナーの参加者から三名が体験発表、それぞれセミナーに通い始めたことを発表し、実践によって悩みが好転している喜びを話した。発表後は村田

優子講師が実践を振り返り、参加者は体験への理解を深めた。解説後は、グループワークがスタート。お互いの悩みを打ち明け、親身になってアドバイスし合う姿が見られ、活発な意見が飛び交った。

終了後は、「新しい発見や気づきがあり、三名の体験がとても勉強になった」「グループワークの時間が楽しかった」といった声が多く聞かれ、参加者の未だを悩む子育て発表会であった。



悩みを語り合う参加者(石川)

気づきが環境を変える。アドバイスが自信に。七月二十日、石川県立図書館で子育て発表会が、スベシャル版にあたる「子育て発表会」が開催され、未会員九名を含む四十七名が参加した。

# 日々の生活に感謝 心に響くシニアスピーチ

幸せの言いほし

「家庭倫理の会鹿角」七月二十一日、山田ササノホールで、シニアスピーチ大会が開催され、百三名が参加した。

川崎和子会長の挨拶に続き、四名の演者が日高恭子さんは、未と娘の言葉を通過した気づきを発表。四月の出来事から純粋倫理との出会いが家族を幸せに導いた、と語った。十四年前に妻を亡くした飯沼崎政秀さんは、会員の笑顔と趣味の歌や踊りのお陰で充実した日々を過ごしていると報告。中保リョウ子さんは、たぐさんの人の縁に恵まれ、無事に面談の手術が成功したことを話した。

最後は山下あゆみ副幹事が「感謝する気持ちを大切に、家族仲良く生活している様子を発表し、皆が笑顔で聴き入り、拍手が沸きました。また、大島講師が、日頃の感謝の大切さを説いた。



フィナーレでは輪になって元気に踊った(日置市)

面談に思いを馳せる。

「家庭倫理の会山口」七月二十日、鶴見地区公民館で、草場由美子理事が、シニアスピーチ発表会を開催。参加者四十五名、今年度はシニアに合わせたテーマの講話やグループディスカッションを五回開催。各支部の代表が一年間を振り返った。益高和子さん、七十三歳、伊東ユリコさん

(七十六歳)、谷口昌子さん(八十三歳)、末永悦さん(八十三歳)は「覚えてますか。親の後の感謝」と題したセミナーに感銘を受けた。八十歳、草場由美子さんは「覚えていますか。親の後の感謝」と題したセミナーに感銘を受けた。八十歳、草場由美子さんは「覚えていますか。親の後の感謝」と題したセミナーに感銘を受けた。

# 働きは最上の喜び

## 純粋倫理基礎講座第十二講

すべくが働け

「家庭倫理の会鹿角」八月六日、上田田公民館に、樋之口美恵子講師を迎えて開催され、三十一名が参加した。第十一講「地球倫理の時代」を受けて、加治屋町支部の西村雄子さんが実践報告。風呂水の再利用

# 手本となって歴史を繋ぐ

「家庭倫理の会館林市長 横山益子(78歳)」

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪



純粋倫理の「働き」を学ぶ(阪神南)



横山益子(78歳)

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪

「なまき」のこころの倫理の輪



# 新たな拠点 産声高く

## 讃岐富士、熱海市、青山が開設

### 諸先輩の想いを心に秘め

香川県讃岐市準備法人会 開設式典が八月二十一日、丸亀市のアイリスで開催され、九十七名が出席した。

始めに長尾卓人専任幹事が経過報告。飯山・綾歌・綾川エリアに新たな倫理法人会の拠点作りが動き出したのは、令和五年十月。普通寺琴平倫理法人会歴代会長兼普通寺の若手メンバーを中心とした新たな地域での分封の提案がなされた。

同年十二月の臨時役員会で新単会の名称を地元の名山・飯野山の別名をとり「讃岐富士準備倫理法人会」と決定。諸先輩の想いに心動かされた開設

準備委員会のメンバーは、プレミーティングをミニナーの準備・開催予集や式典会場の確保等に奔走し、香川県や普通寺琴平の手厚いサポートを受けながら山積する課題を一つずつクリアしていった。

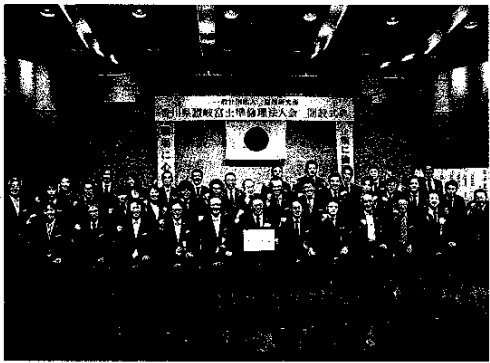
開設に向けては、普通寺琴平から四十社余りの移籍を任じ、初代会長寺定書の綾野孝彦氏を先頭に普及活動を進め、本年七月十二日に七十社で各簿を提出し、式典当日を迎えた。

次いで、法人局の和田毅司長より飯野山に認可書が授与され、役員者に辞令が交付された。綾野会長は挨拶で「開設に

あたって支えていただいた方すべてに備えて感謝し、設立に向けて備えたい」と抱負を述べた。

会場をホテルレオマの森に移しての祝賀会では、澤谷直行中国・四国方面長と川上正城県相談役が挨拶し、開設への謝意を

伝え関係者を労った。乾杯の挨拶で中野吉貴普通寺琴平相談役は「企業界に少なからずあって苦勞を重ねて、親会二五三社を達成しての分封は意義深い」と称賛。会場は大いに盛り上がり、今後のさらなる飛躍を誓った。



ガッツポーズで開設の喜びを表わす参加者(讃岐富士)

伊豆半島開拓の足掛かりに

静岡県熱海市準備法人会 八月二十四日、同会の開設式典が熱海市の起雲閣で開催され、五十名が参加した。

国歌斉唱に続き石川正俊専任幹事が経過報告。静岡県倫理法人会は令和六年に設立四十周年を迎えた。東部地区では、この間、六単会や拠点を増やしていたが、伊豆半島には十年前に設立された伊豆中央の単会のみで、普及はなかなか進まなかった。静岡県は、「我が静岡、仲間を作ろう三十三社、繋いで四十年」のスローガンのもと、四十周年を機に県内の仲間を三十三社に増やす方針を示していた。

東部地区でも伊豆半島での輸送運動を広げる絶好の機会と捉え、会長寺定書の山下美佳東部地区長は、熱海市に新たな拠点を設けることで、伊豆半島全域へ運動を広げる足掛かりとし、地区の堅

固な基礎を築いていく強い決意を固め、今年三月に設立準備委員会を発足。四月一日の第一回準備委員会開催以降、毎月定例会を実施し、

また、四月から未会員対象の夜の勉強会「倫理法人会を知る会」を三週間に一回の割合で計七回開催。山田泰市法人アドバイザーや県役職者の手厚い支援もあり、六月には五十社を達成して開設を果した。

式典ではその後、和田局長より山下会長に認可書が授与され、役員者に辞令が交付された。

山下会長は挨拶で、自身のルーツが熱海市にあること、当地で輸送運動の拠点を築くことへの喜びを語り、設立に向けての決意と抱負を披露した。

式典終了後は、熱海市の指定有形文化財である会場内や庭園を見学したのち、食事会を開催して同会の船出を祝った。

縁を結び、心整える場に

東京都青山準備倫理法人会 八月二十日、青山学院大学内の講堂で同会の開設式典が開催され、六十名が参加した。

日比野専任幹事が経過報告。令和五年末、一「経営者モーニングセミナー」(以下M.S.)の会場を青山にも一つの拠点を高まり、赤坂倫理法人会より新単会を作るプロジェクトが始まった。

令和六年四月中旬、齋藤智青山新設準備委員長日比野氏に専任幹事の就任を打診。日比野氏は固辞するつもりだったが、当時の東京都小林屋山会長や赤坂の川上美保会長からの推挙、夫人からの後押しもあり、承諾。

四月二十五日は、設立実行委員会メンバーの初会合が開催された。

会合には、赤坂の会員として活動していた某合

当地に経営者同士が縁を結び、心整える場があれば、さらにはこの地の会社も地域も発展する」との思いを受け、会員一同心を合わせ普及活動を重ねて式典当日を迎えた。

最大の難問だったM.S.の会場探しも青山学院大学に縁ある会友の伝手と尽力で、同大学青山キャンパス内の講堂を使用する許可を得ることができた。

謝辞に立った某会長は、開設に尽力したすべての人に謝意を表して抱負を披露。次なる目標は九月に七十社、十月に八十五社、十一月に百社を達成し、令和七年一月の設立を目指して力強く歩む同会である。

役員は白羽の矢が立つ。氏、青山、三〇年代から倫理法人会であり、同会の経営にも携わった経験をもつ。青山を深く知り、愛する某氏の経験の多く

認可書を掲げ出席者と喜びを共有する某谷昌代会長(青山)

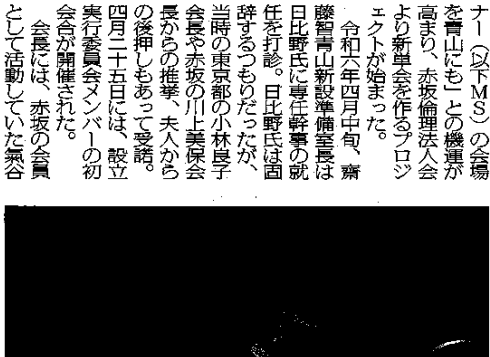
これは「万人幸福の基第十四条にある悲観は、誤である。憂いは、業である。さわやかな希望の薫風で吹きさらわう。烽火をあかめくしよう。そして高く掲げよう。燈を太へただけ、高へかかげただけ、必ず前途は打ち開ける」という中野会長の信念に響かされた会友への激励もあった。

県下の会長、専任幹事は、そのメッセージに呼応し、会場の安全確認や会員の安否確認に奔走。一月五日に小松市がM.S.を開催したことを皮切りに、月中旬には、ほとんどの会が活動を再開した。

特に被害が大きく、M.S.会場が使用不能となった七尾市と奥能登も、杉森修平会長七尾市、越田純市会長(奥能登)を中心にM.S.再開に向けて動き出す。自身の自宅や会社も全壊、半壊し、ラインの復旧もない状況の最中、田会長は「震災直後は今後の見通しが立たず、呆然としていたが、今出来ることは何かと考えた時、なんとかM.S.を再開して会友を元気づけた、元気づけた」という情熱が湧いてきた」と、会場探しに奔走。歴代会長の協力も得て、能登半島からやや金沢市までの羽咋市に会場を見つけ、二月から再開した。初回となった七尾市のM.S.には九十六名、奥能登には九十三名の会友が駆け付け、活動の再開を喜び合った。

中野会長は、「全国から多大な復興支援を頂戴しました。その思いに応えるには、どんな状況でも石川県を前に進んで頑張っているぞ」と活動を通して全国に示していくことと力強く語る。

石川県倫理法人会は、逆境を力に連帯を強化し、令和六年七月、三年連続で全単会普及目標達成という偉業を成し遂げた。



謝辞で決意と抱負を語る山下美佳会長(熱海市)



認可書を掲げ出席者と喜びを共有する某谷昌代会長(青山)

# 9 倫理法人会 レポート

## 拡充への道

### 震災に挫けず前を向き 全単会が目標達成

令和六年元月、十六時十分以降発生した能登半島地震。現状、石川県内の住宅被害は八万三四三三棟、未だ三九八名が避難所での生活を余儀なくされている。石川県発表「令和六年能登半島地震による人的・物的被害の状況について」第一五五報・八月二十七日現在、県内十二の倫理法人会を統括する中野専行会長は「発生以降、私も自宅にいましたが、揺れが大きくて長く、家族と離れながら不安を感じていました。揺れが落ち着き、十六時三十五分に会友にメールを送りました。今年の石川県準備法人会は「明けましておめでとうございます」ではなく「感謝」が無事ですかから始まりました。会友から「無事です」という返信もあれば「水、電気がアウトです」「自宅が半壊しました。道もひどい状況です」「小学校に避難しています。家も何となく大丈夫です」「メールも能登地域の会友から届きました」と振り返る。

地域によっては最大な被害が出ていることも認識した上で、中野会長は「この時だからこそ、経営者モーニングセミナー(以下M.S.)をやりますよ。会場が安全上の問題なく、役員者が参加できるのであれば開催しよう」というメッセージを即日、発信した。そ

れは「万人幸福の基第十四条にある悲観は、誤である。憂いは、業である。さわやかな希望の薫風で吹きさらわう。烽火をあかめくしよう。そして高く掲げよう。燈を太へただけ、高へかかげただけ、必ず前途は打ち開ける」という中野会長の信念に響かされた会友への激励もあった。

県下の会長、専任幹事は、そのメッセージに呼応し、会場の安全確認や会員の安否確認に奔走。一月五日に小松市がM.S.を開催したことを皮切りに、月中旬には、ほとんどの会が活動を再開した。

特に被害が大きく、M.S.会場が使用不能となった七尾市と奥能登も、杉森修平会長七尾市、越田純市会長(奥能登)を中心にM.S.再開に向けて動き出す。自身の自宅や会社も全壊、半壊し、ラインの復旧もない状況の最中、田会長は「震災直後は今後の見通しが立たず、呆然としていたが、今出来ることは何かと考えた時、なんとかM.S.を再開して会友を元気づけた、元気づけた」という情熱が湧いてきた」と、会場探しに奔走。歴代会長の協力も得て、能登半島からやや金沢市までの羽咋市に会場を見つけ、二月から再開した。初回となった七尾市のM.S.には九十六名、奥能登には九十三名の会友が駆け付け、活動の再開を喜び合った。

中野会長は、「全国から多大な復興支援を頂戴しました。その思いに応えるには、どんな状況でも石川県を前に進んで頑張っているぞ」と活動を通して全国に示していくことと力強く語る。

石川県倫理法人会は、逆境を力に連帯を強化し、令和六年七月、三年連続で全単会普及目標達成という偉業を成し遂げた。

東海・北陸地方 高橋哲也



